

## 今後の飯塚市文化施設活用検討委員会の運営について

### 1. 中間答申書の提出

提出日 令和4年11月7日

中間答申書 別紙のとおり

### 2. 今後の委員会開催日程と審議・協議事項（当初のスケジュール案）

回数	時期	概要	審議内容
第6回	R4.11 中旬	運営方法・再開までの取り組みの検討	1. 運営方法の検討 2. (本格) 再開までに取り組むことについての検討
第7回	R4.12 下旬	答申検討①	1. 答申案の検討①
第8回	R5.1 中下旬	答申検討②	1. 答申案の検討②、決定

### 3. 最終答申までの協議・審議事項（案）

- (1) 地域経済の活性化に嘉徳劇場がどのような役割を果たすことができるか  
文化施設や周辺商業施設との連携による活用方針について（諮問内容）の深堀
- (2) 運営方法の検討
- (3) 劇場再開までに取り組むこと（ソフト事業等を中心に）  
 (例)①啓発事業のあり方 ～ 若者を含む新しいユーザーの獲得方法 含む  
 ②市民への働きかけ ～ 応援組織（運営・資金・ファンクラブ）の立ち上げ など
- (4) その他、中間答申で不足していた内容
- (5) 再開する嘉徳劇場を端的に表現するキャッチコピーの検討

## 嘉穂劇場の周辺地域や施設との連携による活用方針について (協議用参考資料)

### 1. 関係者へのヒアリング結果の整理

～ 劇場再開後の賑わいへの期待、賑わいづくりへの課題について ～

#### (1)地域との関わり（現状）

- 嘉穂劇場との関わりは、留学生を対象とした商店街ツアー等で嘉穂劇場も訪問させてもらっていた。
- 座長大会の際は、観光協会、商工会議所、商店街、市とが協力してお練りを実施したこともあった。
- 平成15年度の水害の被害以降、まちを元気にしたいとの思いから昭和通り商店街や自治会内で嘉穂劇場を取り込む方策を考えたことがあった。その際には、今ある嘉穂劇場裏口につながる細い通路を拡幅して、昭和通りから直接嘉穂劇場に入ることができれば、街並みも活気づくし、嘉穂劇場もわかりやすいのではないかという意見が出ていた。

#### (2)地域の関係者から見た周辺地域の評価・課題

- 八千代座は、山鹿市に滞在して体験できるアクションが複数あるが、現在の飯塚市、嘉穂劇場周辺にはそれが不足している。
- 旧伝右衛門邸は位置的にピンポイントでしかなく、周辺に見学場所がない。一方、嘉穂劇場は、飯塚市を知っていただくうえで「地の利」が良いと感じる。周辺には千鳥屋や長崎街道の通りがあり、飲み屋街にも歴史がある。
- 井筒屋の跡地活用を考えていたが、井筒屋を解体すると、福岡銀行飯塚本町支店の外観が現れ、とても趣があることが分かった。このため今は跡地を「ヲソラホンマチ広場」として賑わいづくりに使っている。また、曩祖八幡宮から本町商店街へのまち並みも、見ようによっては面白い地域である。
- 歴史が市街地にあり、古いまち並みには面白い箇所がある。ショッピングセンターとは異なるその土地の空気を味わうことができる。
- 嘉穂劇場は中心市街地に所在しているが、嘉穂劇場を含め以前は「面」で存在していた観光スポットは、現在「線」でしか存在していない。その点は残念である。
- 本町商店街の裏にも歴史を語る資源が点在している（「わた惣」の裏の住まいは江戸時代のもの）。嘉穂劇場を含むこれら地域資源を一体化した文化振興に市としても優先順位を上げて取り組んでほしい。

- 嘉穂劇場の周りに店舗がない（少ない）のがネックとのアンケートの回答あり。周辺のまちも盛り上がる企画が必要。
- 現在、昭和通りは車の通行量も少なくなっている。そのような中で、昭和通りはセットバックをしようとしている。本当に必要なのか。飯塚潤野線の整備も遅れていると聞く。今、嘉穂劇場周辺の街並みは大きく変わろうとしている。
- 現在、嘉穂劇場周辺も空き店舗や空き家が増えてきている。しかしながら今後ゆめタウンやJAの直売所の開設によって、昭和通りをはじめ中心市街地は大きく変化していくものとする。そのようなまちづくりの中で嘉穂劇場も考えていかなければならないと思う。
- 人流が増加することによって、空き店舗もお客様のニーズに合った店舗に変化していかなければならない。昭和通りは飲食店を中心に少しずつ新しい店舗が出店してきている。

### (3)地域関係者から聞き取った賑わいづくりへの期待、提案

- 見に来た人が楽しめると同時に、この地域でお金が回り、地域が潤う仕組みを考える必要がある。
- 嘉穂劇場の廻りは飲み屋街があるが、新宿の末広亭の周りも飲食店が立ち並んでいる。梅田花月の周りでも飲食ができる。興行など見た後に飲食ができ、楽しめる、そんな大人の遊び方ができる空間であってほしい。
- 嘉穂劇場とその周辺部分が一緒になって、時間を過ごすことのできるまちになってほしい。
- 嘉穂劇場とコスモスコモンは近接しているのがよい。今後両者の特色を生かしてイベントが実施できる。嘉穂劇場は使い方次第である。
- かつて街道まつりが中心商店街を中心に実施されていたが、この祭りを嘉穂劇場をメイン会場として実施することもいいのではないか。ただし、周辺を含めて地域全体の開発が必要なのではないか。
- 現在、年末から年始にかけて、市民の交流の場づくりとして緑道公園を中心にイルミネーションでライトアップする取り組みをボランティアで実施しているが、この取り組みのメイン会場を嘉穂劇場にしてもいいのではないかと考えている。いろいろな団体の協力で嘉穂劇場の活用が活発になることを期待したい。

## 2. 委員によるグループ討議の結果から

～ 劇場再開後の地域全体の賑わいへの期待、賑わいづくりへの提案など ～

- 周辺を可能な限り再整備するとともに、オープンな空間をつくる。
- 本町から東町、そして劇場まで誘導する通りができれば、地域活性化につながるのではないかと。
- 市民とのつながりを強めるためのイベントの開催も大切である。
- 周辺地域（商店街等）を巻き込んで忍者、コスプレ等開催するなどしてはどうか。
- 長崎街道や炭鉱の歴史と芝居小屋をつなげて地域活性化を目指してはどうか。
- メタバースの空間として嘉穂劇場を利用するのはどうか。
- 八千代座の見栄えに嘉穂劇場は勝てない。のぼり旗を多く立ててインスタ映えを狙ってみてはどうか。
- のぼり旗はもっと地域に広がったほうがいいのではないかと。のぼり旗はお客様の誘導サインになる。

# 飯塚市中心商店街活性化ビジョン

(計画期間：令和4年4月から令和7年3月)

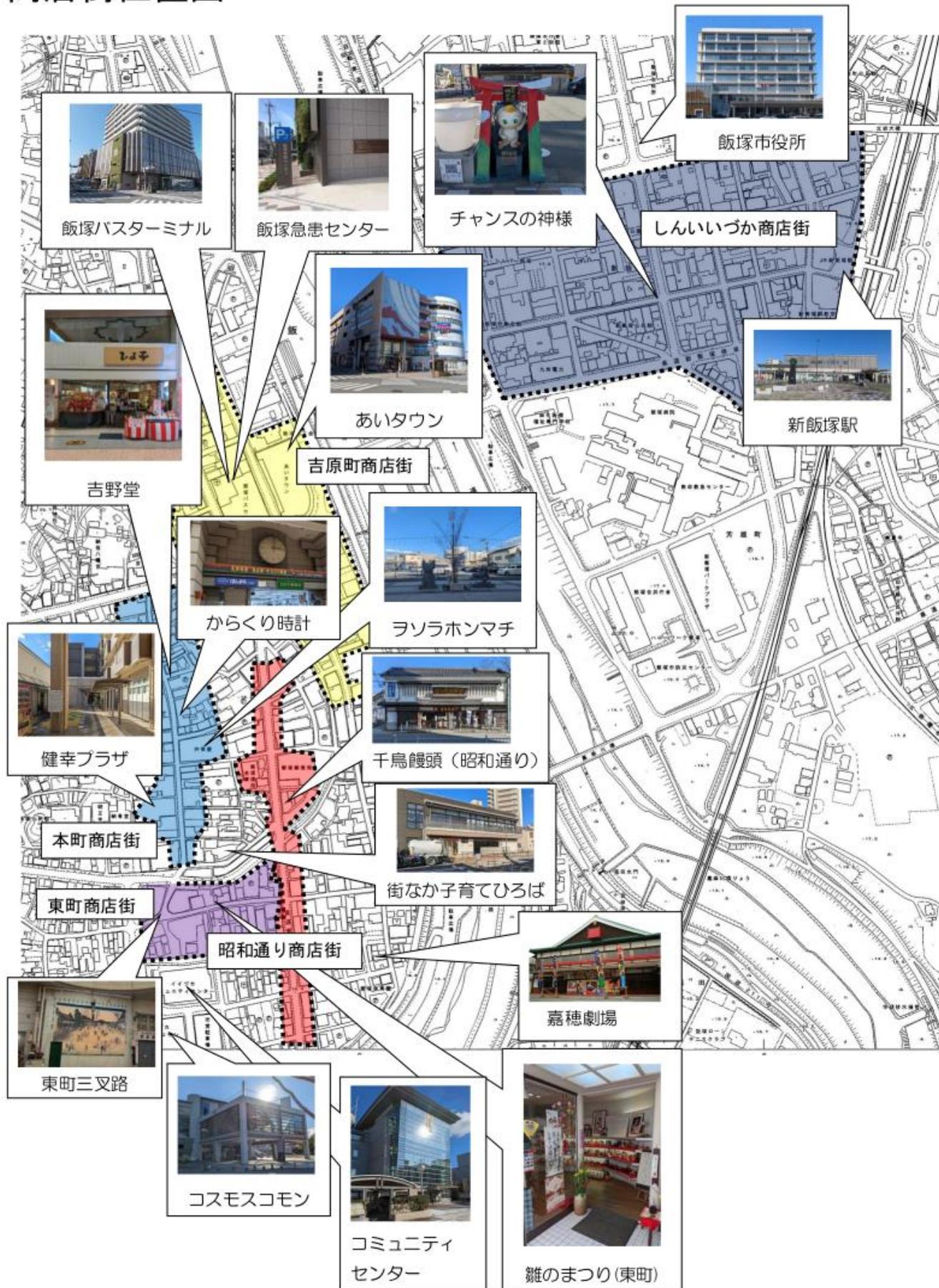


令和4年4月

飯塚市商店街連合会

飯塚市 商工観光課

# 商店街位置図



### (9) 中心商店街の人口

中心市街地の人口は、中心市街地活性化基本計画により実施した土地区画整理事業や市街地再開発事業により平成25年から平成28年まで増加しています。しかし、平成29年度以降、市全体を上回る減少率で減少しています。

自治会名	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度 (H29. 3. 31 時点)	H29年度 (H29. 6末)	H29年度 (H30. 3末)	H30年度 (H31. 3末)	R元年度 (R2. 3末)	R2年度 (R3. 3末)	前年度 増減
吉原町	216	239	253	261	317	341	362	362	354	346	338	△8
リバーサイド	446	444	435	426	441	445	438	436	445	427	417	△10
宮の下	325	311	311	320	320	293	291	276	273	294	294	0
下本町	326	313	303	287	280	278	279	279	279	267	261	△6
中本町	149	145	141	141	133	127	125	124	106	98	105	7
上本町	190	183	171	146	154	253	265	278	280	276	262	△14
向町	219	223	221	220	226	217	215	214	212	211	194	△17
御幸町	106	99	95	96	92	94	93	93	90	84	80	△4
東町東	220	217	204	206	197	197	191	176	175	177	164	△13
東町西	158	158	170	169	174	164	169	162	154	147	143	△4
新飯塚東	511	521	540	534	497	524	527	522	527	523	560	37
新飯塚西	605	611	609	633	608	569	566	549	537	531	511	△20
芳雄	175	168	181	200	222	215	217	220	210	217	220	3
合計	3,646	3,632	3,634	3,639	3,661	3,717	3,738	3,691	3,642	3,598	3,549	△49
人口比率	2.78%	2.77%	2.79%	2.80%	2.83%	2.87%	2.88%	2.86%	2.84%	2.82%	2.80%	
飯塚市	131,172	130,884	130,357	130,018	129,343	129,702	129,949	129,144	128,286	127,557	126,964	△593

※毎年1月1日現在の住民基本台帳

#### ●人口増減率

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
中心市街地	△1.35%	△0.38%	0.06%	0.14%	0.60%	1.53%	0.56%	△1.26%	△1.33%	△1.21%	△1.36%
飯塚市	△0.19%	△0.22%	△0.40%	△0.26%	△0.52%	0.28%	0.19%	△0.62%	△0.66%	△0.57%	△0.46%

資料：年齢別人口統計(自治会別)

出典：各年統計いろいろ

(10) 中心商店街の歩行者通行量

中心商店街の歩行者通行量は、年々減少傾向であり、特に新型コロナウイルス感染症が拡大した令和2年度及び令和3年度は約半減しています。また、休日より平日の通行量が多いことから従業や病院通いの来街者が多いことが推測できます。

調査地点別歩行者数の推移（平成25年～令和4年）

【 平 日 】

地点	調査地	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	2年	3年	4年	前回比
1	下本町	1,969	1,932	1,770	1,555	2,080	1,467	1,202	732	1,080	941	87.1%
2	上本町	3,148	3,271	3,387	2,762	2,377	2,340	2,094	1,194	1,469	1,736	118.2%
3	公設市場	3,748	3,318	2,246	1,961	1,470	2,185	1,771	525	657	683	104.0%
4	東町	703	726	832	592	618	615	496	282	283	324	114.5%
5	昭和通り	586	544	573	656	619	610	541	240	427	379	88.8%
6	吉原町1	771	666	963	2,046	2,798	3,236	2,398	1,189	1,858	1,945	104.7%
7	吉原町2	1,737	3,440	3,172	1,968	2,380	2,534	1,944	1,020	1,652	1,582	95.8%
計		12,662	13,897	12,943	11,540	12,342	12,987	10,446	5,182	7,426	7,590	102.2%

【 休 日 】

地点	調査地	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	2年	3年	4年	前回比
1	下本町	1,443	1,084	1,130	1,602	1,113	982	1,095	645	682	668	97.9%
2	上本町	2,558	2,376	2,518	2,822	2,124	2,055	2,215	1,255	841	1,295	154.0%
3	公設市場	3,793	3,102	3,075	2,540	1,854	1,350	1,342	468	366	507	138.5%
4	東町	1,002	583	638	746	775	660	697	259	289	609	210.7%
5	昭和通り	571	354	357	464	464	396	397	237	203	274	135.0%
6	吉原町1	619	608	355	521	1,124	1,575	2,128	1,117	964	1,174	121.8%
7	吉原町2	1,209	1,372	1,944	2,032	1,304	1,332	1,561	1,010	975	1,025	105.1%
計		11,195	9,479	10,017	10,727	8,758	8,350	9,435	4,991	4,320	5,552	128.5%

【 平 日 】 + 【 休 日 】

地点	調査地	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	2年	3年	4年	前回比
1	下本町	3,412	3,016	2,900	3,157	3,193	2,449	2,297	1,377	1,762	1,609	91.3%
2	上本町	5,706	5,647	5,905	5,584	4,501	4,395	4,309	2,449	2,310	3,031	131.2%
3	公設市場	7,541	6,420	5,321	4,501	3,324	3,535	3,113	993	1,023	1,190	116.3%
4	東町	1,705	1,309	1,470	1,338	1,393	1,275	1,193	541	572	933	163.1%
5	昭和通り	1,157	898	930	1,120	1,083	1,006	938	477	630	653	103.7%
6	吉原町1	1,390	1,274	1,318	2,567	3,922	4,811	4,526	2,306	2,822	3,119	110.5%
7	吉原町2	2,946	4,812	5,116	4,000	3,684	3,866	3,505	2,030	2,627	2,607	99.2%
計		23,857	23,376	22,960	22,267	21,100	21,337	19,881	10,173	11,746	13,142	111.9%
対前年度比		-	98.0%	98.2%	97.0%	94.8%	101.1%	93.2%	51.2%	115.5%	111.9%	

※調査時期:各年3月の第4金曜日・日曜日

出典：飯塚商工会議所調査

(11) 中心商店街の空き店舗調査

中心商店街の空店舗数は、平成 24 年度と令和 3 年度を比較すると、営業店舗数は 6 店舗減少しています。また、空き店舗率は 2.2%改善していますが、老朽化した空き店舗の解体によるものと推測できます。

H24年度 商店街別営業店舗・空き店舗数

H24.6調査

商店街名	営業店舗	空き店舗	店舗数	空き店舗率
本町商店街	62	26	88	29.5%
東町商店街	40	20	60	33.3%
永楽町商店街	30	5	35	14.3%
昭和通り商店街	30	18	48	37.5%
吉原町商店街	49	21	70	30.0%
しんいづか商店街	63	23	86	26.7%
合 計	274	113	387	29.2%

R3年度 商店街別営業店舗・空き店舗数

R3.6調査

商店街名	営業店舗	空き店舗	店舗数	空き店舗率
本町商店街	57	26	83	31.3%
東町商店街	35	14	49	28.6%
永楽町商店街	—	—	—	—
昭和通り商店街	34	17	51	33.3%
吉原町商店街	48	11	59	18.6%
しんいづか商店街	94	31	125	24.8%
合 計	268	99	367	27.0%

出典：飯塚市・飯塚商工会議所調査

(12) 西鉄バス筑豊、JR新飯塚駅、JR飯塚駅の利用者数の推移

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
新飯塚駅	1,505千人	1,554千人	1,541千人	1,579千人	1,618千人	4,503人/日	4,520人/日	4,494人/日
飯塚駅	427千人	431千人	413千人	409千人	414千人	1,141人/日	1,122人/日	1,126人/日
西鉄バス	7,865千人	7,867千人	7,562千人	6,654千人	6,790千人	6,587千人	6,703千人	6,503千人

出典：各年統計いづか

## 6 商業（中心商店街を含む）の課題の整理

本市から車で40分以内の圏内に大規模商業施設の立地が相次ぎ、更に新型コロナウイルス感染症が拡大する中において、市内の商業機能は厳しい状況となっており、市民の買い物の場所が郊外あるいはインターネット購入に急速に移っています。地域経済において、地域内でお金が循環する仕組みを高めるためには、商業機能（地元中小企業者）の果たす役割は大変大きく、地域経済の活性化を図る上で商業の振興（地元中小企業者の成長と事業継続）は、将来にむけての大きな課題です。

また、市内においては時間をゆっくりと過ごす、いわゆるレクリエーションや娯楽の場所に乏しく、このような視点からも商業機能は重要な役割を担います。更に、商都飯塚という歴史とブランドを有する飯塚市にとって、商業の発展は「住みたいまち、住みつづけたいまち」づくりの大きな要素となり、商業機能の充実は今後の飯塚市の発展に欠くことができません。

### 【現状からの課題の把握】

#### （1）人口減少について

飯塚市全体及び中心市街地の人口は年々減少しており、この傾向は継続するものと予想されます。このことを踏まえると、令和7年3月までの短期間（ビジョン計画期間）に定住人口（夜間人口）の増加は見込めません。

居住環境（暮らしやすさ）の維持・向上を図るとともに市外から通勤・通学者や買物者などの交流人口（昼間人口）を増加させる必要があります。

#### （2）来街者の減少について

飯塚市全体の小売業は、事業所数、売場面積が減少しているのに対して販売額は増加しています。これは、インターネットの普及によるネット販売が増加しているものであり、更に、新型コロナウイルス感染症の影響によりリアル店舗の集合体である商店街の歩行者通行量は著しく減少しています。併せて、空き店舗の解体で空き店舗率は増加していないものの、営業店舗数は減少しています。

交流人口の増加にあわせ、この増加した交流人口を商店街内に集客・周遊・滞留させる仕組みづくりが必要となります。

#### （3）地域経済循環について

飯塚市の2015年経済循環率（78.6%）は県内の中位（22位）に位置しており、市民・市内企業の所得が市外に流出しています。また、買物人口についても小売吸引度が1を下回っており市外に流出しています。

この流出を減少させるためには、市民・企業が市内で消費行動のできる環境が必要となります。

## 7 商店街活性化の目標

このような基本方針や課題を踏まえ、人がつどい、交流する賑わい空間、地域コミュニティを育み、誰もが住みやすい居住空間を創出し、それを次世代に引き継ぐための持続可能な商業施策を推進していく必要があります。また、令和5年度、ゆめタウン等の開業により、交流人口は確実に増加します。商店街活性化の目標は、この増加した交流人口を周遊・滞留させる（商店街に呼び込む）ことにより、歩行者通行量を増加させるとともに新規出店や老朽化した店舗をリノベーションすることにより営業店舗数を増加させることを目標とします。また、この目標達成するためには、商店街自体が主体性を持ち販促事業の企画・実施する必要があり、これをコーディネートする人材も必要となります。

### 令和6年度までの目標

(1) 歩行者通行量：22,000人（平成28年度まで回復）

(2) 営業店舗：新規出店数 10店舗/年以上

#### (1) タウンマネージャーの設置と役割

消費税増税や新型コロナウイルス感染症拡大、ゆめタウン等の進出などにより本市の商業を取り巻く環境が大きく変化中、周辺商業施設が連携し、居住者や交流人口（市外からの来街者）が周遊・滞留できるような仕組みづくりを喫緊のうちに構築する必要があります。その周辺施設の核の一つとなる中心商店街ですが、歩行者通行量や営業店舗数の減少など活気が失われつつあり、周遊・滞留の仕組みづくりの一環として中心市街地の魅力向上を図る必要があります。限られた時間の中でこの仕組みづくりを推進するためには、商店街内の現状を把握している人材とタウンマネジメントに精通した専門家が共同して、効率的・効果的に進捗させるためタウンマネージャーを設置します。

#### 【主な役割】

- ① 増加する交流人口を商店街内に集客・周遊・滞留させる仕組みづくり
- ② 空き店舗の解消（テナント誘致とリノベーション）
- ③ 商店街イベントの企画・実行
- ④ 地域住民や来街者と商店主とのコミュニティの醸成
- ⑤ 商店街の意見集約
- ⑥ 商店街活性化に関する情報収集（各種会議への参加や国の補助金など）
- ⑦ 情報発信（各種イベントなど）

#### (2) 周辺商業施設との連携による商店街活性化の考え方

これまでの商業といえば、個店同士が技を磨き、切磋琢磨しながら国内顧客の獲得競争を国内で実施していた。

しかし、ITの普及により、身近な店舗だけでなく、国内ひいては海外事業者も競争相手となりうる経済状況となり、消費者の選択肢も増加し様々な顧客ニーズが生まれ多様化した。多様化した顧客ニーズに対応していくためには、情報の発信力強化、従前の枠組み（商

店街単位)にとらわれない考え方による顧客獲得が必要である。

つまり、これまでの商業イベント(百縁市、永昌会、まちゼミ等)に加え、他商業施設と連携事業を企画し、実施運営を行うことで、新しい活気的なアイデアとなり発信する情報自体の強化につながる。加えて、情報発信者が複数となり情報発信を十分に行える環境下の中で、新たな飯塚市を代表する商業イベントソフト等を創造することができる。

そして、新たに企画したイベントを通して顧客を獲得し、商店街自身の営業力強化にもつなげていく。

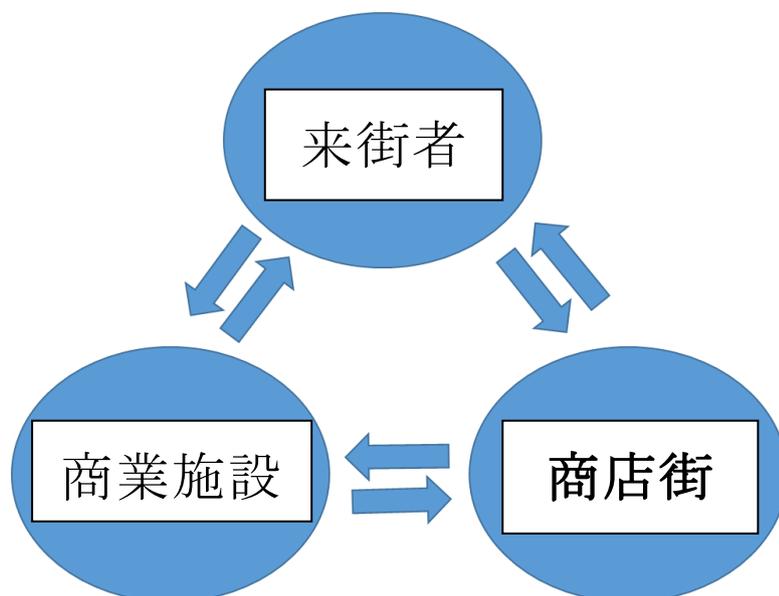
#### 【目的効果】

- ① 他商業施設と連携事業の企画を行うことにより、それぞれの特徴(魅力)を消費者に認知してもらう。
- ② 上記①の実施により、規模感の増加につながり市外顧客へのアプローチにつなげる。
- ③ 上記①により、広報力の強化につなげる。(メディアの取材増加等)
- ④ 回遊するお客様を通じ、自身の店舗の強みや弱みの再発見につなげる。
- ⑤ 新規顧客へのアプローチにつなげる。
- ⑥ 継続した競争力強化につなげる。

#### 【ソフト事業(例)】

- ・他商業施設とお買い得情報が共有できる SNS の活用
- ・他商業施設と相互に場所の提供を行い、共通イベントを実施

顧客視点のメリット	商店街視点のメリット
・新規店舗の発見 ・買い物の選択肢の増加 ・飯塚でモノが揃う実感を体験 ・飯塚の魅力の発見・再発見 etc...	・自身のお店の強み、弱みの発見・再発見 ・新規顧客へのアプローチ増加 ・広報数の増加 ・市外顧客の獲得 etc...



## 8 商業活性化事業

ビジョンの目標を達成するため2人タウンマネージャーを中心として、事業効果を最大限に発揮できるよう、計画・段階的に事業を実施することとします。

### (1) 令和3年度事業

- ・新規創業者支援事業
- ・低未利用地・空き店舗調査事業
- ・キャッシュレス決済推進事業

### (2) 令和4年度事業

- ・新規創業者支援事業
- ・商店街活性化支援事業（タウンマネージャーの設置）
- ・空き店舗リノベーション促進事業
- ・不足業種・機能誘致事業
- ・周遊商業エリア連携協議会設置事業
- ・キャッシュレス決済推進事業

### (3) 令和5年度開始事業（仮）

- ・商店街内公共施設等連携事業
- ・周辺商業施設回遊促進事業（商業施設間の周遊循環バスなど）
- ・居住者・商業者ふれあい事業
- ・多世代交流促進事業
- ・不足業種・機能誘致事業
- ・周遊商業エリア連携ソフト事業
- ・SNS活用情報発信強化事業



土曜マルシェ



しんいづかぶらり市



パンぱーく

飯塚市中心商店街関連イベント一覧

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1週	月				飯塚山笠					永昌会	イルミネーション	雑のまつり	
	火												
	水					花火大会							
	木												
	金												
	土												
	日												
第2週	月				飯塚山笠					イルミネーション	イルミネーション	雑のまつり	
	火												
	水												
	木												
	金												
	土												
	日												
第3週	月												
	火												
	水												
	木												
	金												
	土	百縁市	土曜マルシェ	百縁市	土曜マルシェ		土曜マルシェ	百縁市	土曜マルシェ	百縁市	土曜マルシェ	百縁市	土曜マルシェ
	日												
第4週	月									イルミネーション	イルミネーション	雑のまつり	
	火												
	水												
	木												
	金												
	土												
	日								イルミネーション				

※その他不定期に各種イベントが行われている。

・音楽会（飯塚第一中や飯塚高など）、学園祭（飯塚高）、デジタルスタンプラリー、はじめてのおつかい、テーマイベント（昆虫、乗り物など）

## 嘉穂劇場再開までに必要なこと（ソフト事業を中心に）

### ◎ これからの嘉穂劇場に期待されること（ターゲットと機能）

- ✓ 市民が利用でき、市民が誇れる劇場に
- ✓ 子どもたち・家族が思い出を作り、子どもたち・家族に愛される劇場に
- ✓ 演者から選ばれ、繰り返し使ってもらえる劇場に
- ✓ 外国人にとって日本文化を体感でき、大きな興味を持ってもらえる劇場に

(1) 市民が誇れる劇場であるためには

(2) 子どもたち、そして家族に愛される劇場であるためには

(3) 演者から選ばれる劇場であるためには

(4) 国内観光客だけでなく海外観光客にとっても楽しんでもらえる劇場であるためには

(5) （全体を通して）地域の活性化につながる劇場であるために必要なことは